青嶺 seirei

文責　田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

笑顔が弾けた 文化学習発表会

「笑顔満開１０２色の花を咲かせよう」のスローガンのもと開催された今年の文化学習発表会は、それぞれの個性や持ち味が存分に発揮され、大いに笑い楽しみ、そして最後には感動があふれた素敵な素晴らしい一日となりました。アイデア満載の生徒会と三年生によるオープニングから始まり、牟田さんの発表は自分と向き合い、思いを言葉にして観客に届けてくれました。

一年劇は元気でのびのびと脳の中の世界を表現し、人間らしく生きるためにゲームに支配されないぞ、とメッセージを送ってくれました。二年劇はファンタジーの中にちょっぴり大人の味付けが加わり思わずクスリと笑う場面が多かったです。みんなで希望や楽しいことを願えば飛べる！とラストは訴えました。三年劇は笑いあり、感動ありと学年一丸となった素晴らしいステージでした。「愛と勇気」、過去の出来事から友や周囲の人たちの力を借りて立ち直ろうとする雄介を応援する姿に感動しました。さすが最上級生、圧巻の演技でした。

展示も普段の学習の成果が存分に発揮され、そして心が温かくなるメッセージもありました。講評の時は思わず言葉に詰まりましたが、四月から生徒たちを見てきて、その変化や成長の速さに本当に驚かされます。この取組みを通じて自分の殻を破り、互いの新しい一面を発見し、認め合える集団にまた一歩近づいたことでしょう。担任をはじめ生徒教職員がともに本気で、全力で取り組んだからこそ楽しめたのでしょう。終わった後の清々しい笑顔が印象的で、これからの青嶺中がますます互いを認め合い、競い合う居心地の良い場所になると確信しています。本当に素晴らしい一日をありがとう。

「対話から気付く自分自身のこと」

最近、とある出来事があり、そのことが頭から離れず、やや落ち込んだ日々を過ごしていました。周囲には明るく振舞いましたが、そのことが頭から離れません。どうしてもマイナスの方向に考えがいってしまうのです。

そんな時、そのことを友人にぽろっと話しました。しばらく聞いてくれていた友人は、自分の見解を示してくれましたが、それは私自身が思ってもみなかった捉え方でした。

ほんの少しのやりとりで自分の狭い偏った捉え方に気づかせてくれ、そして目の前を明るくしてくれました。

これは一人では絶対にたどり着けない捉え方で、対話のすばらしさとその力を実感した出来事です。

言葉を交わし合う対話の中で、自分自身の頭の中にある考えが整理され、その偏りに気づき、そしてどう捉えなおすか導かれました。

困ったり落ち込んだりしたら人に頼って下さい。そして頼られた人は、誠実に寄り添い、言葉を交わして下さい。恩を受けたなら決して忘れず、受けた恩をその人や、他の人に返して下さい。対話を通して、自分自身を深く知り、そして豊かに人生を歩んでほしいと願っています。

無人の荒野に入る時

昔の開拓民が羊を放牧する場所を求めて奥地に分け入った道の跡があり、ストックルートと呼ばれます。道というより轍（わだち）のようなもので長いストックルートは１，０００kmに渡ります。全く集落のない乾燥地帯に入るとき、場所にもよりますがレンジャーに届け出て、地形などの情報を収集することができます。

観光地では崖のふちに金網や進入禁止の看板はなく、どこでも立ち入ることができます。走行中の電車の扉は開けることができ、停車しない途中の駅も少しスピードが落ちるので飛び降ることができると判断したら、個人の判断で降りることができます。

なにかをするときに、「個人の判断」に委ね、その判断材料になる情報を与えるのがオーストラリアです。その「大人扱い」に心地よさを感じます。何か起こってもそれは個人で負うべきもの、誰かの責任にはしないという潔さです。

日本を振り返ると事故を未然に防ぎ、安全を確保するために規制を設け、危険な場所には立ち入れなくするように対策することが多いように思います。国や自治体の責任として、危険から遠ざけようとするのです。

どちらが良いのか、ではなくどちらも良い。個人として生きていくうえでどう判断するか、なのでしょう。自分の生きる道、進んでいく道を決めるとき、最終的にどう決定するか、じっくりと考えてみましょう。

＊＊＊　＊＊＊　＊＊＊

札幌のゲストハウスで

札幌で出会った河合さん。世界中を何年もかけて旅をして、奥さんの故郷の札幌でゲストハウスを経営しています。話が大変興味深く、またゲストハウス一階のカフェ兼バーは大変居心地がよく、河合さんのカフェラテはすごく美味しくつい長居をしてしまいます。

とても自然体の河合さんですがある時旅を終えようと思ったきっかけについての話になりました。ギリシャかどこかの街角で風景を見ていたら、どこか思い出せないけど同じ景色に見えたそうです。旅が日常になり、好奇心が薄れ感動しなくなったと感じ「日本に帰ろう」と思ったそうです。自分の心と対話して、自分の中で区切りをつけたのですね。

旅で一番見えてくるのは自分自身です。スパッと決心した河合さん、その潔さが素敵だなぁと感慨にふける札幌の夜でした。